あおり運転

JJ1SXA/池

今年のお盆休みに、日本列島の注目を集めた事件は、常磐自動車道で起きた「あおり運転暴行事件」だ、若い男性が運転する乗用車に対して、白いSUVタイプの高級外車が過剰なあおり運転を繰り返したドライブレコーダーの映像が、SNSなどで拡散した。

あおり運転を繰り返し、最後には、男性の車の前に入るなどして停止させ、そのSUVから男女2人が出てきて、中年の男の方が、若い男性に暴行を加えた、その一部始終は録画され、その日のニュースやインターネットで大きな反響を招いたのだ。

2017年6月5日午後9時35分ごろ、東名高速道路の下り線で発生した、あおり運転等に起因する死亡事故が発端となって、あおり運転の危険性が日本で注目されていた。

この事故は、事故の前、被害者ら家族の父親が、中井パーキングエリアで、パーキングエリアで加害者の車が、道路を塞ぐように枠外に駐車していたのを注意したところ、そのことを逆恨みに思った加害者は、被害者らが高速道路に入ると約1.4キロの間、邪魔をするように走行してきて前を遮り、ワゴン車を高速道路上で停車させ、そして、そこから間もなく、ワゴン車にトラックが追突し、両親は死亡し同乗の子供達は負傷したが、この事故の記憶が消えないうちに、今度の事件が起きた。

警察庁交通局交通指導課課長補佐の矢武陽子氏が、ここ最近のあおり運転を統計的にまとめて、「日本におけるあおり運転の事例調査」として、著書にしている。

内容を見ると、まず、あおり運転の加害者は、同調査の対象期間中は全て男性であり、被害者もまた大半が男性であった、加害者の年齢では、30代が最も多く、50代にも2番目のピークが存在し、被害者は40代が最も多い。

被害者と加害者の車種や車の価格による分類をしているが、その分類によると、加害者の40％が500万円以上の四輪車に乗っていたことだ（2番目に多いのは200万円以上499万円までの四輪車で29％）。

一方被害者は、高級車両（500万円以上の四輪車）はわずか10％で、調査対象の中で最もウエートが低い。

被害者の車種で一番多かったのが、200万円から499万円までの四輪車で40％、次いで200万円未満の四輪車が35％となり、合わせて8割近くになる、トラックは被害、加害両方ともに1割程度である。

つまり、中高年の高級車を運転している男性が、中年の比較的安い車に乗っている多くの場合は男性をあおっているということが、この調査からイメージとして浮かび上がる。

私の場合、安い車に乗っていることは該当するが、その他の条件とは一寸かけ離れているようだ、だからといって、あおり運転の被害に合わないとは言い切れない。

あおり運転の被害に合うのは、被害者に全く落ち度が無いケースもあるだろうが、被害を受ける側にも何らかの原因がある場合もある，2017年の事故の場合も、注意の仕方はどうだったのでしょうか、例えば口の利き方、言葉遣い等、勿論、加害者は間違っていることを指摘されたのだから、これで怒る方がおかしいのだが、そんな輩も多いのだ、正義もやたら振り回してはいけない、くれぐれもあおり運転の被害に合わないよう気をつけましょう。

参考：「日本におけるあおり運転の事例調査」矢武陽子
https://www.iatss.or.jp/common/pdf/publication/iatss-review/43-3-09.pdf